

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数 11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	鹿児島県指定 第4670104100号
法人名	有限会社 ウエルケア
事業所名	グループホーム ひまわりの里
訪問調査日	平成 21 年 11 月 17 日
評価確定日	平成 21 年 12 月 12 日
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年11月22日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4670104100号		
法人名	有限会社 ウエルケア		
事業所名	グループホーム ひまわりの里		
所在地	鹿児島県 鹿児島市 吉野町 5916-1 (電話) 099(295)8631		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島県 鹿児島市 星ヶ峯4丁目 2番6号		
訪問調査日	平成21年11月17日	評価確定日	平成21年12月12日

【情報提供票より】 (21年 9月30日事業所記入)

開設年月日	平成 17 年 2 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤8人	非常勤8人 常勤換算14人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り 平屋建ての ~ 1 階部分		
------	------------------------	--	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	8,400 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (27,000円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要 (9月 30日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名	
要介護 1	4 名	要介護 2	7 名			
要介護 3	2 名	要介護 4	2 名			
要介護 5	2 名	要支援 2	0 名			
年齢	平均	84 歳	最低	72 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	相良外科	宮ノ下歯科クリニック
---------	------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鹿児島市の北部に位置し、近くに小・中学校があり、閑静な住宅地にこのホームがある。管理者は、「職員が宝」という主旨から、働きやすい職場をめざしたり、資格を取りたい職員の勤務の配慮等もしている。男性職員も多く配置され、また、看護職・介護福祉士・作業療法士・社会福祉主事資格者などの資格者があり、専門性を生かした支援もなされている。利用者はゆったりとした雰囲気の中で日々を暮らし、なごやかな明るいホームである。重度化や終末期ケアに対する取り組みもなされている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	自己評価の取り組みは検討されて、改善されつつある。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価で、運営推進会議や避難訓練について検討され、地域への働きかけも含めて、取り組みの検討がされている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は数回開催されているが、地域関係者等との日程調整がつかず、職員と管理者・家族の参加となっており、運営推進会議としての主旨を活かすに至っていない。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	「苦情・相談内容記録表」を作成し、家族からの意見や要望は記録している。家族の来訪時には必ず声かけをするようにして、出された意見等は話し合いを行い、運営に反映させている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホーム行事の案内を地域に発進したり、敬老会のおすしを近所に配ったりしている。中学生の体験学習やボランティアの受け入れを行ったり、小学校の運動会の見学にも出かけている。地域住民との交流を進めていく上で、運営推進会議や災害対策への協力を求めながら、地域との連携の検討をしている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念ではあるが、地域密着型サービスとしての理念の検討が未着手である。	○	地域の中で暮らし続けるための、地域密着型サービスとしての理念を、作り上げることが期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関・トイレに掲示し、会議の中でも話している。管理者や職員は、理念についての共有はできている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の住民にホームの行事の案内をしている。体験学習やボランティアの受け入れや小学校の運動会の見学に出かけている。地域住民に、敬老会のおすしを配ったりして、交流をすすめているが、交流は今からである。	○	今後も町内会に働きかけをしたり、地域の住民に声かけを継続していくことが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価を行なった。評価の意義をふまえて、具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センターや行政の職員・地域関係者の参加が日程の調整がつかず不参加であった。	○	できるだけ、多くの関係者の意見をサービスの向上に活かされるような会議内容が期待される。


外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の行政窓口に出かけて報告したり、情報を得ている。地域包括支援センターの職員とも懇談し、サービスの向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月のホーム便りを家族に郵送している。生活の様子や健康状態、金銭管理も定期的に家族に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「苦情・相談内容記録表」を作成し、家族からの意見や要望は記録している。家族の来訪時には必ず声かけをして話している。出された意見は運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はできるだけ少なくするように努め、馴染みの関係を大切にし、利用者へのダメージを与えないようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会に参加し、勉強会を自分たちでも開催している。段階に応じた育成への取り組みを行っている。資格取得希望者には勤務の配慮をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームとの交流会や勉強会を行っている。連絡協議会も立ち上げるために準備中である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者は利用開始する前に、ホームに来てもらい、宿泊体験を行ってもらったり、本人・家族とよく相談して利用を開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として接している。昔話や調理の仕方等、時には励ましてもらったり、共に支えあう関係を大切に日々暮らしている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの生活情報や生活歴を知るようにしている。会話や顔色を見ながら思いを把握している。困難な場合は、職員と話し合いながら本人本位で検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族と職員はよく相談しながら、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた見直しを行なっている。状態に変化があった場合は現状に即した計画の見直しを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助や昔住んでいた家に行ったり、自宅訪問をしたり、郵便物を取りに行くなど、多機能性を活かした支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。主治医と相談しながら適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方について、職員で話し合いを行い、かかりつけ医とも連携を取っている。「終末期生活における契約書」を家族と結んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誇りやプライバシーについて、職員で意見交換を行い、声かけや態度に注意を払っている。個人情報記録の取り扱いを注意し配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、起床や散歩・入浴・就寝等、利用者のリズムに添った対応に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好を調べて、代替食材で対応している。買い物や料理の準備・食器洗い・下膳等を職員と一緒にいき、食事を楽しむことの支援をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決まっているが、希望に添って支援を行っている。なごやかに手を引いて入浴したり、洗物のついでに入浴したりと、工夫しながら楽しく支援を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かして、塗り絵や習字・卓球・テレビ等を楽しんだり、洗濯ものを取り込んだり・たたんだり、役割や気晴らしの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩に出かけている。コスモス見学や花見・寺山にお弁当を持って出かけたりして、できるだけ戸外に出るような支援をしている。外出が嫌いな人もいるが、家族にも協力してもらい、外出の機会をつくっている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。外に出る傾向の利用者に、一緒について行き、少し散歩するようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災・地震・水害等の災害時マニュアルがある。消火器の使い方や緊急連絡先一覧等はできているが、避難訓練はこれからである。	○	消防署の協力を依頼し、地域の人に参加を呼びかけたりして、定期的に避難訓練を行うことが望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のチェック表を作成し、食事量や体重の管理も行っている。水分もこまめに取りようしている。栄養バランスのチェックも行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いリビングは明るく、写真やカレンダー・テレビ・ソファがあり、居心地よく過ごせる工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	椅子や箆笥・仏壇・家族の写真等、馴染みのものや好みのものがあり、本人が安心して居心地よく過ごせるように支援がなされている。		

※  は、重点項目。